

SSKS

あけぼの 5月号

つうしん



手作りケーキで Happy Birthday! (府中生活実習所 1 グループ 調理実習)

社会福祉法人あけぼの福祉会 <http://akebono-fukushi.com>

府中共同作業所 (法人本部) 〒183-0056 東京都府中市寿町 3-3-6

☎042-367-0640 E-mail: kyoudous@akebono.fuchu.tokyo.jp

ワークセンターこむたん 〒183-0056 東京都府中市寿町 3-3-6

☎042-306-8639 E-mail: komutan@akebono.fuchu.tokyo.jp

府中生活実習所 〒183-0005 東京都府中市若松町 5-2

(短期入所事業併設) ☎042-363-5251 E-mail: f-seijitu@akebono.fuchu.tokyo.jp

地域生活支援センターあけぼの 〒183-0056 東京都府中市寿町 3-9-11 山上ビル 1F

☎042-358-1085 E-mail: siencenter@akebono.fuchu.tokyo.jp

ホームヘルプステーションきぼう 〒183-0056 東京都府中市寿町 3-9-11 山上ビル 1F

☎042-352-0630 E-mail: kibou@akebono.fuchu.tokyo.jp

グループホームペンギんはうす 〒183-0056 東京都府中市寿町 3-9-11 山上ビル 3, 4F

(グループホームあけぼのユニット) ☎042-319-8915 E-mail: pengin@akebono.fuchu.tokyo.jp

グループホーム樹林の家 〒183-0026 東京都府中市南町 6-52-10

(グループホームあけぼのユニット) ☎042-319-2268 E-mail: kirin@akebono.fuchu.tokyo.jp

あけぼのショートステイ 〒183-0056 東京都府中市寿町 3-9-11 山上ビル 2F

☎042-319-8917 E-mail: akebonoshort@akebono.fuchu.tokyo.jp

2023年

1995年

5月13日

8月10日

発行 第3種郵便認可(毎週1回 水曜日 発行)
SSKS 増刊通巻 第8747号

発行所 東京都世田谷区祖師谷3-1-17
障害者団体定期刊行物協会 定価50円



社会福祉法人あけぼの福祉会

第5期中期計画

～どんなに障害が重くても、

生き生きと安心して暮らせる社会をめざして～



★はじめに

小規模(無認可)作業所府中共同作業所が1979年に開所して43年、社会福祉法人あけぼの福祉会が1992年に設立されて30年が経過しました。この間、たくさんの市民の方々や行政に深いご理解とご支援をいただき、微力ながら障害のある人とそのご家族の願いに応える事業を展開してきました。

とくに、1992年の社会福祉法人設立時には、故秋元波留夫理事長のリーダーシップのもと「社会福祉法人設立がゴールではなく、障害のある人の願いに応え発展していくための出発点」と位置付けて、あけぼの福祉会の経営理念「どんなに障害が重くても、生き生きと安心して暮らせる社会をめざして」を合言葉に6項目の決意表明を行いました。

★4期にわたる中期計画(将来構想)

社会福祉法人設立後もさまざまな課題に直面しました。特別支援学校卒業後の進路先がない、家族が病気や怪我などになった時に利用者の夜間の支援が必要、医療的ケアがなければ通所できない、障害の

重い人を支援するヘルパーが足りない、重度の知的障害のある人の進路先が少ない、利用者や家族の生活全般にわたる深刻な課題に専門性を持った相談できる場所がほしいなどの課題に次々と直面してきました。

法人としては、これまで5年に1つのスパンとして、将来構想の検討委員会を設置して、新たな事業の創設や既存の事業の機能強化を図ってきました。

○第1期(1997年～2002年)

緊急一時レスパイト施設の創設・2つ目の作業所創り・委託による相談支援事業の創設

○第2期(2002年～2007年)

ホームヘルパー事業の創設・都立府中生活実習所の移譲・都型ショートステイの創設・福祉ホームの整備

○第3期(2008年～2012年)

こむぎ工房とたんぽぽの家の施設整備・身体及び知的障害のグループホームの開設・総合支援センターの開設

○第4期(2013年～2017年)

総合支援センターの開設・身体及び知的グループホームの開設

上記を掲げて、法人関係者が一丸となって、また、府中市のご支援をいただきながらとりくんでしました。

その結果、当初の予定から実施時期が遅れる、活用する制度などが計画と異なることもありましたが、中期構想で計画したことをほぼ実現することができました。しかし、ここで改めて確認したことは新たな事業を次から次と展開することが目標ではなく「利用者の願いに一つひとつについていくこと」が目標であるということでした。

★ 第5期中期計画の策定に向けて

法人としては第4期中期計画最終年以降2018年からの中期計画が残念ながら未策定の状況が続いていました。

その理由としては、社会福祉業界全体の課題である人材確保が思うように進まなかったこと、住まいの場や短期入所などの制度の不備により法人全体の財政状況がかつてないほど厳しい状況になったこと、そして利用者の障害の重度化、ご家族の高齢化などにより、職員が目目の緊急対応に追われる中で、新たな計画まで手が及ばなかったことなどが上げられます。

また、法人を取り巻く大きな背景としては、日割単価による報酬制度により経営が不安定にならざるを得ないことに加え、2019年からのコロナ危機により、まず利用者の命と健康を守ることが最優先課題とならざるを得なかったこと、そしてコロナ危機の中で、対面で人と人が集まって議論することなどができなくなったことも大きな要因でした。

★ 第5期中期計画(将来構想)

法人設立30周年を控えて、法人理事会や管理職会議を中心に第5期中期計画を策するための準備を2020年からスタートしました。最初に利用者及びご家族のニーズ調査と職員の将来に向けた意向調査を行い、それを集約するかたちで計画の策定を行いました。

○第5期中期計画(2023年～2027年)

前半 2023年 2024年

後半 2025～2027年

- ① 7つの既存の事業の充実・発展方向
- ② あけぼの総合支援センターの機能強化
- ③ 地域に求められる新たな事業の模索と実現
- ④ 防災、減災対策、災害時の地域貢献

新たな事業計画

- ① 新たなグループホームの創設と1人暮らしのサポート事業
 - ② 地域医療施設との連携
 - ③ 夕方及び休日の支援(ショートステイやホームヘルプ事業の機能強化)
- を目標に掲げていきます。

障害のある人の願いは多岐にわたるため、あけぼの福祉会だけでは到底すべての願いに応えることはできません。

そのため、これまで以上に市内の社会福祉法人などとの連携や役割分担を行うとともに、既存の制度では願いに応えられない場合には、新たな制度の創設に向けて国や自治体へ働きかけていくことが不可欠と考えています。

KOMUTAN フィナンシェ物語 第2章

～地域に愛されるカフェを目指して

リニューアルオープンまでの道のり～



新年度がはじまり早2カ月が過ぎようとしています。前回3月号ではどうやったら地域の方々に必要とされる「ベーカリー&カフェこむたん」になるのかという課題に対して、東京都商品開発等業務改善支援等モデル事業(以下都事業)を活用して新たな作業種目「焼きたてのフィナンシェ」を取り入れていこう!と考え、準備を進めてきたところまでをお伝えしました。

今月号では、KOMUTANフィナンシェ物語第2章として5月8日リニューアルオープンまでの道のりをお伝えしたいと思います。

すごくおいしいフィナンシェを

焼けるようになりました!!!!



3月半ば～末にかけて、待望の機材(コンベクションオープンなど)や備品(フィナンシェの型やボウルなどの調理器具)の納品がありました。喫茶室は3月末でいったん休業とし、4月から本格的にリニューアル準備が始まりました。

まずは4月3日午後、埼玉県春日部市にある『菓子工房オークウッド』の横田秀夫シェフがこむたんに来てくださり、フィナンシェ教習を行ないました。横田シェフ、お菓子界ではとても有名な方とお伺いしていましたが、そのご指導は、障害のある人や職員が製造す

ることをも考えたうえでの指導、工程説明であり、シェフの作られるお菓子、お店と同じように優しい、あたたかなご指導をいただきました。この日は、コンサルタントの方々はじめ、コンベクションオープンの会社の方も来所されており、オープンの設定や注意点なども学ぶことができました。また、各業者さん、店舗デザイナーの方などとの打ち合わせもあり・・・と、教わること、考えることなど盛りだくさんの1日でした。

今回のフィナンシェの大切なポイントの一つは、なんといっても「おいしい焦がしバターの風味」です。昨今のバター不足のなか、バターの確保は難題でしたが、都事業でお世話になっているコンサルタントさんからのご紹介があり、本当にありがたいことに国産の「カルピス発酵バター」を入手できることになりました。

この貴重なバターをどうおいしく『焦がす』ことができるのか。シェフのアドバイスを基に、温度計とにらめっこをしながら日々(今も)精進する毎日が始まりました。もちろん最初からうまくいくわけではなく、失敗することもありました。その都度「なんでだろう?」と工程を見直し、失敗の原因を考え、やり直す日々。そんなことを繰り返しながら、製造の甘い香りがこむたん喫茶室の内外に広がるようになり1ヵ月。ようやく安定して「外はカリッと、バターの香りとナッツの風味いっぱいのおいしいフィナンシェ」が焼けるようになりました。

殺風景だった窓が、壁が・・

「すてきなカフェ」風に変身!



フィナンシェ製造も佳境のなか、もう一つ、リニューアルに向けて大きな課題がありました。「ベーカリー&カフェこむたん」は、大きな通りに面していますが、地域の景観協定により旗竿等の看板が出せないこと。作業所の1階にあり、殺風景な外観であることなど、外から見ると「何の場所? お店?」「ちょっと入りにくいかな」という印象がありました。

そんななか、こむたん利用者が描いたたくさんの絵をリニューアル前の2日間かけてフリーハンドで店内外に描いてくれたのは「創造楽工」のデザイナーさん。デザイナーさんがペイントをすすめてくださる横で、地域つながりて同じ府中市内の「FLAT STAND」さんがコーヒーを淹れてふるまってくくださるプレオープンとしてのプチイベントを開催することができました。こむたんフィナンシェ初めてのご試食配布など、リニューアルオープンに向けて、近隣のみなさん、通りすがりの方にもわくわくしていただける2日間となったように感じました。

また、今リニューアルでは店舗デザイナーさんの提案力もととても大きかったと思います。どうやったら「商品が見える」「入りたいお店」にな

るのか。少ない予算の中で自分たちでできること、できないことを分けて検討をすすめ、できない部分をたくさんフォローしてくださいました。

今プロジェクトは「利用者の給料となる売り上げをどうあげていくか」の問いに対し、良い商品提供をすることで地域の人から必要とされるお店、事業所となること。そのために「ベーカリー&カフェこむたん」というお店を知っていただき、扉を開けてお店に入っていただくことをまずは目指そうということから、新商品「焼きたてフィナンシェ」の製造に取り組むことになりました。本当にたくさんの方のご協力のもと、リニューアルした「ベーカリー&カフェこむたん」が誕生したのだと、ご縁をいただきました関係みなさまに心よりお礼を申し上げます。

「ベーカリー&カフェこむたん」は5月1日~2日のプレオープンを経て、5月8日より、リニューアルオープンをしました。毎日数回、焼きたてにて提供している自慢の「フィナンシェ」を中心に、食パンなどのパン商品、コーヒーの提供も始めております。みなさまのご来店をお待ちしております。

焼きたてフィナンシェ
1個 250円です



平日 12時~17時オープン
ご贈答用の箱入もあります!

次回、フィナンシェ物語 第3章では、製造に奮闘する利用者の様子、店舗商品などをお伝えしたいと思います。



新入職員紹介

1995年
2023年

8月10日
5月13日
第3種郵便認可(毎週1回 水曜日 発行)
発行 SSKS 増刊通巻 第8747号

府中共同作業所 生活支援員 豊住 美帆 (とよずみ みほ)



4月から府中共同作業所に入職した豊住美帆と申します。
以前は高齢者の施設、特養と老健で働いてきました。
趣味はスノーボードです。今は子どもが小さく数年行けていませ
んが、下の子が今年の冬で3歳になるので、家族全員で滑りに行
きたいなと思っています。
初めてのことでわからないことたくさんありますが、みなさんと
楽しく過ごし、一人ひとりに寄り添える支援者になれるよう、頑張
ります。
よろしくお願いいたします。

ワークセンターこむたん 栄養士 若井 真美子(わかい まみこ)



1月からワークセンターこむたんの給食に異動しました若井真美
子と申します。
「今日の給食おいしかったよ！」という声をたくさん聞くことがで
きて、大変嬉しく思います。
これからも、皆さんが給食を食べて元気にお仕事にはげめるよう
頑張ります。
どうぞよろしくお願いいたします。



【編集後記】

先日、「アイスバーグ理論」をスポーツ指導に取り入れている方の話を聞く機会がありました。

「アイスバーグ理論」とは、成果・結果は氷山の一角に過ぎず、海面下に潜む大きな氷のように、見えない部分に成果・結果の土台が隠れているというもので、その目に見えない部分を「能力・スキル」「ふるまい・習慣・行動」「意思・想い・人生哲学」の3つの階層に区分します。スポーツにおいて、どんなに優れた指導者から「能力・スキル」を教わっても意志がない(諦める、挑戦しないなど)と上達は難しいのだそうです。

水面上から水面下の要素は見えないけれど、日々の積み重ねがあることを意識・想像することが大切となります。水面上に立派な氷山を浮かび上がらせたいのなら、水面下の成功要因をしっかりと形成することが必要となるのです。今月の特集ではあけぼの福祉会の第5期中期計画を紹介しました。将来構想を実現するためには水面下の土台作りから！ということ胸に刻みつつ、日々の支援に励んでいきたいと思ひます。

(府中共同作業所 森 知世子)